

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月 27日

【評価実施概要】

事業所番号	第4670104563号
法人名	医療法人 春風会
事業所名	グループホーム はるかぜ黎明
所在地	〒 892-0841 鹿児島県鹿児島市照国町3-13 (電 話) 099-227-1180
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島県鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成22年3月14日

【情報提供票より】(22年 2月 14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 8月 30日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤 10 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 6.5 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 入居者の概要(2月 14日現在)

入居者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	7 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	5 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	80 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田上記念病院 ・ 西歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市内の繁華街に近く、照国神社や中央公園にお年寄りが歩いていける距離にホームが建つ。近くに国道がとおり、市街地の騒々しいイメージがあるが、駐車場では入居者の日光浴をしながらの歌声が聞こえ、室内は笑い声や話し声が心地よく響く空間となっている。建物は落ち着いた雰囲気、日中は入居者が過ごしやすく、職員と共に会話や歌を楽しむなど、家族と一緒に支えあいながらも楽しくすごすことができ、同一法人に医療機関もあり、入居者の健康管理を行い家族からの信頼も厚い。また、民生委員に運営推進会議に参加してもらい、災害対策や日頃のつきあいに協力をもらったり、災害時には地域のお年よりの一時避難所としてホームを提供したり、ホームの入居者だけではなく地域の住民の安心につながっている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「改善計画シート」を活用し、職員ミーティングで実行できる改善策を話し合っている。評価結果は誰もが閲覧できるように玄関に設置し、コピーを家族へ送付している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全員で取り組み、話し合った結果をまとめたものである。その作業は、職員が外部評価の意義を確認し、目指す方向や課題を考える機会になったと認識している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回開催され、町内会役員、利用者、家族、地域包括支援センター職員、民生委員などの参加がある。事業所行事等の報告のみではなく、出席者から次回会議の委員推薦の意見やその他助言があり、有意義な会になっていることが議事録より確認できる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に相談窓口を記載するとともに、第三者委員を玄関付近に掲示し、家族会も定期的に開くなど、家族が意見や要望を表しやすい工夫と配慮が感じられる。職員が苦情などを把握した時には、苦情処理受付簿や申し送りノートにその内容を記載し他の職員と共有し、必要な場合は職員会議で話し合い、本人や家族に報告するなど速やかな解決を図っている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目⑥	町内会に入会し、回覧板の受け渡し、ゴミ捨て場の清掃活動や行事への参加、公園等へ散歩で出会う地域の方へのあいさつや声かけなどにより関係づくりに力を入れている。また小学校、高校、大学等との交流会やボランティアの受け入れを行い、日常的に交流が行われている。さらに災害時には、お年寄りの一時避難所としても提供している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基に職員全員で作成したグループホーム独自の理念がある。「あなたと家族の絆を地域の中で大切に支えていきます」などの言葉を含み、地域に根ざしたサービスを意識できる内容が盛り込まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関とホールに理念を掲示するとともに、毎日の朝礼において唱和し、問題があるときは、理念の具体的な実践について研修を行い、ミーティングにて具体的に話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、回覧板の受け渡し、ゴミ捨て場の清掃活動や行事への参加、公園等へ散歩で出会う地域の方へのあいさつや声かけなどにより関係づくりに力を入れている。また、小学校、高校、大学等との交流会やボランティアの受け入れを行い、日常的に交流が行われている。さらに災害時には、お年寄りの一時避難所としても提供している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、全員で話し合い作成している。昨年の結果は、「改善計画シート」を活用し、職員ミーティングで改善策について話し合った。評価結果は、誰もが閲覧できるように玄関に設置し、コピーを家族へ送付している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催され、町内会役員、利用者、家族、地域包括支援センター職員、民生委員などの参加がある。事業所行事等の報告のみではなく、出席者から次回会議の委員推薦の意見やその他助言があり、有意義な会になっていることが議事録より確認できる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年に1回介護相談員の受け入れを行い、頻繁に市担当窓口や福祉事務所などへ事務手続きやその他の機会に訪問し、問題や事故、成年後見人制度などの情報交換を行うなど、協働してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	写真と利用者の暮らしぶりを記載したお知らせを毎月発行し家族に状況を知らせている。職員の異動については、面会時や家族会で報告し、金銭管理について毎月領収書と残高表を発送し確認してもらっている。利用者の健康状態に変化があった時には、そのつど電話などで家族へ報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談窓口を記載するとともに、第三者委員を玄関付近に掲示し、家族会も定期的に開くなど、家族が意見や要望を表しやすいような工夫と配慮が感じられる。職員が苦情などを把握した時には、苦情処理受付簿や申し送りノートにその内容を記載し他の職員と共有し、必要な場合は職員会議で話し合い、本人や家族に報告するなど速やかな解決を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理運営者は、馴染みの関係の重要性を理解しており、昨年の職員異動も少ない。職員の交代がある場合は引継ぎを十分に行い、職員の交代・異動の報告は面会時や家族会で家族に行い、入居者の混乱等を防ぐ配慮をしている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の計画があり、施設外研修は、管理者が職員に紹介し、勤務の調整や受講費の法人負担など積極的に支援している。受講者は報告書を作成し、職員会議などで伝達を行っている。人事考課制度を通して職員自身と話し合い、習熟度に応じた具体的な研修計画を立てている。	○	管理者は資格取得を含む職員の研修指針等はある程度たててはいたが明文化されておらず、文書確認が出来なかった。今後は全員で共有できるよう指針の明文化が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿児島市のグループホーム協議会に加入し、職員が交代で交流会へ参加している。その機会を利用して近所のホームの職員と顔見知りになり、散歩先で出会うと職員、入居者とあいさつや世間話をする交流がうまれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前にできるだけホームの見学をしてもらい、見学に来られない方には管理者が出向いて顔なじみの関係を作るような取り組みをしている。また、関係機関からのサマリーをもとに、場に馴染めるような配慮を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と入居者が、共に支えあい暮らしていくという気持ちをもって生活している。1日1回は体を動かすレクリエーションを行い、音楽活動等も頻繁に行うなど一緒に活動したり、楽しんだりする機会を多く設けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時には本人や家族、その他の関係者からどのように暮らしたいかを聞き、介護計画に活かしている。入居後は、日々のかかわりの中で本人の意向を汲み取り、ケア会議などを通じて職員間で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望を踏まえ、ケアマネジャーと職員が話し合い介護計画を作成している。主治医とは、医療記録や受診ノートを活用し、丁寧な連絡が取られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画について毎月モニタリングを行い、変化の兆しがないか見直し、まとめている。入居者の状況に変化があり、介護計画の見直しが必要な時には、ミーティングを開いて計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や家族の宿泊の支援など臨機応変な対応をしている。また、関係医療法人の協力をもらい、健康管理や体調管理を行っている。その他、災害時は施設を一時避難所として開放できる用意があり、地域の認知症のお年寄りの安心につながっている。また実費で外部サービスの訪問マッサージ等も利用できる体制がとられている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、入居前からかかっている医療機関も含めて本人や家族の意向を大切に決めていく。訪問治療受診時も適切な治療がうけられるように受診ノート等で情報提供に努めており、良い関係がつけられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員で作成した重度化や看取りに対する対応指針を定め、家族に説明し、同意をもらっている。また、その後も本人や家族、かかりつけ医と相談し職員の共有も図っている。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護についてパンフレットに掲載するとともに、個人情報使用の同意をもらっている。玄関付近に個人情報の保護方針や利用目的についての掲示があり、記録等は外来者の目に触れないように事務室に保管している。入居者への日頃の声かけについては個人を尊重しながらも親しみが持てるような声かけをしている		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や希望を考慮し、その日の過ごし方について個別に声をかけながら支援している。本人の外出・着衣・理美容などの選択を支援し、その人らしい暮らしができるように配慮している様子がうかがえる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テレビ、料理本やチラシを見ながら、食事の希望や食欲を引き出す工夫をしたり、旬の食材を利用したり、配膳、下膳を一緒に行うなど食への興味を持ってもらうよう努めている。食事は、職員も一緒に会話を楽しみながらとっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	決まった入浴日があるが、それ以外の日でも入浴やシャワー、足浴、清拭などの対応ができる。入浴を嫌われる方には、タイミングをみての声かけや入浴剤の使用、または温泉に出かけるなど気持ちよく入浴を楽しめるように工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の支度や後片付け、洗濯、プランターでの花作り、工作、漬物、梅干作りなど、一人ひとりの生活歴や力を見つけ出し、支援に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	駐車場で音楽活動をとりにれた外気浴を行い、日常的に本人の気分や天気のよい日など買い物、散歩などで屋外に出るように支援している。また、定期的にドライブや地域行事への参加を支援するなど外出の機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は常に利用者の状態を把握し、外出されるときにはさりげなくついて出たり、見守りを行っているが、2階のユニットは、安全対策のため玄関に鍵がかけられていた。	○	安全のためやむを得ず鍵をかけなければならない状況でも、職員、家族で身体拘束について認識を共有できるよう研修等を行うことが大切である。身体拘束委員会等で話し合った内容は、家族、入居者伝え、共有する体制づくりが望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した避難訓練や消火訓練を定期的に行うとともに、風水害を含めた緊急時のマニュアルを作成し、応急手当などの研修にも取り組んでいる。地域住民には回覧板で理解を呼び掛けを行い、協力して災害対策を行う体制を整えている。非常災害時の必要な食料や飲料水などの備えもある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量や排泄を個人別に把握し、記録することで身体状況を判断しケアに活かしている。また、年に2回、管理栄養士に研修を受けたり、アドバイスをもらいながら食生活の質の向上に努めている。小さめに刻んだり、とろみをつけるなど、利用者の咀嚼能力や栄養状態によってきめ細かい支援に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、絵画や花が飾られ、リビングや畳スペースには思い思いにくつろぐことができる広さが確保されている。リビングは日差しが差し込み明るく、心やすらぐ家庭的な雰囲気がたどよい、居心地よい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族とも相談し、一人ひとりの希望や状況に応じて仏壇、ベット、家具、タンス、椅子、テレビ、テーブル、コタツ、ぬいぐるみなど、馴染みの物を持ち込み居心地のよい空間となっている。		